



お元気ですか？野村せつ子です。

猛暑に豪雨、大変な夏でした。日本共産党は、参院選で比例代表で5議席、東京、大阪、京都選挙区でも議席を獲得、8議席に躍進し、北関東を活動地域とする紙智子さんを3たび送り出すことができました。栃木選挙区では小池一徳党県書記長が健闘、議席には届きませんでしたが、得票でも得票率でも伸ばしました。参院選挙で多数を握った安倍自公政権は、消費税増税や社会保障の大改悪、原発再稼働、憲法9条改憲など「暴走リスト」を具体化させています。自共対決「秋の陣」へ、大きくなった日本共産党国会議員団と連携し、県民生活を守るためにがんばります。(前栃木県議会議員)



68回目の終戦の日



集団的自衛権の憲法解釈変えてはならない

日本共産党栃木県委員会と中部地区委員会は、8月15日、68回目となる「終戦の日」の街頭演説を宇都宮市で行いました。安倍首相が集団的自衛権の憲法解釈をめぐる閣内法制局見解をも変えようとする動きが表面化するなか、戦争で犠牲になった人々への哀悼の意を表すとともに、二度と戦争をしないと誓った憲法9条を守りぬくために明文改憲も解釈改憲も許さない決意をのべました。

(写真 = 左から荒川恒男宇都宮市議、福田久美子市議、野村せつ子、小池一徳書記長)

「東海第2原発を廃炉に」 日本原電に申し入れ

原発ゼロ栃木の会は、8月29日、日本原子力発電(株)濱田康男社長に「東海第2発電所を再稼働せず廃炉にするよう求める申し入れ」を行いました。運営団体の一つである共産党から私と星徹夫茂木町議が参加しました。再稼働や安全対策について、32ヶ所しか離れていない栃木県民に説明すべきではないかとの指摘に、原電側は「答えられない」と無責任な態度でした。栃木県の運動団体が直接原電に廃炉を申し入れた意義は大きく、今後も引き続き働きかけていきます。



写真 = 茨城県東海村の東海テラパークで申し入れ(8月29日)

~~~~~  
ツイッター、フェイスブックやっています! ぜひ「フォロワー」「お友達」になって下さい。



<https://twitter.com/nomurasetuko/>



野村節子で検索

栃木民主新報 号外 日本共産党前県議 野村せつ子の活動について特集しました。

2013年9月発行 〒321-0167宇都宮市東浦町21-12 電話028-658-4302 FAX028-658-4374

## 野村せつ子の活動から



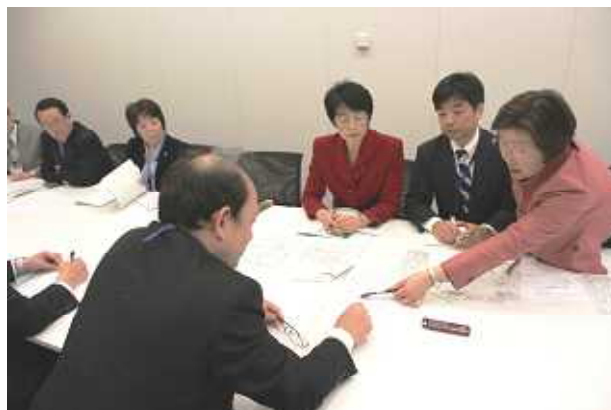
### ナシ被害を調査、農家支援を

4月中旬の異常な低温と霜でナシなど果樹に甚大な被害が出ました。党北部地区委員会や宇都宮市議団、小池一徳書記長らとともにナシ農家調査を行いました。調査を元に5月22日、県農政部長に面談し、支援を申し入れました。農政部長は「条例の要件などはできるかぎり柔軟に運用したい」「経営資金の利子補給は据え置き期間を2年程度設けたい」などと応え、防霜ファンについても「設置を推進する上で電気代負担について研究したい」と答えました。

写真＝宇都宮市のナシ畑で農家から話を聞く(5月23日)

### 大谷の陥没、徹底調査を

2月3日に宇都宮市大谷町の山林が陥没した問題で、2月15日、現地視察や観測システム関係者から話を聞きました。大谷石採取場跡地の陥没は16年ぶり。3・11大震災を受け、これまでとは違う「陥没のメカニズム」の可能性が指摘されていることがわかり、2月22日、福田知事宛に徹底調査を申し入れました。また3月14日には、紙智子参院議員とともに大谷地区住民と懇談、16日に国・経産省に申し入れしました。廃坑内のボーリング調査費の予算の増額、採石跡の安全対策に国として責任を持つよう求めました。住民は「『埋め戻し』と称して産廃などを投棄されることが一番怖い」と話しており「安全対策は住民合意で」と重ねて要求しました。



写真は経産省に申し入れする紙智子参院議員(中央)、小池書記長、宇都宮市議団と野村せつ子(3月16日)

### 政務調査費の用途拡大するな 県議会議長に申し入れ



写真は三森議長(左)に申し入れする小池一徳書記長と野村せつ子(1月22日)

1月22日、三森文徳県議会議長に、政務調査費の用途拡大を行わないよう申し入れしました。地方自治法改正にともない、政務調査費の名称を「政務活動費」と変更、対象を調査活動だけでなく、陳情や住民の相談活動などにまで拡大するもので、日本共産党は住民の理解を得られないと、国会での法改正に反対しました。申し入れでは「いま必要なのは、透明性を高め、住民の信頼を回復すること」だと指摘し慎重な対応を求めました。三森議長は「充実した政務活動によって良い仕事をするのが大事。条例改正は一人会派もふくめ全会派の協議を経ており、何ら問題はない」などと述べました。日本共産党を除く県議会各会派は、交付額の一部返還を求める住民訴訟で提訴されており、県民から見て政務調査費の透明性は十分とは言えません。

# 原発即時ゼロへ、ねばり強く

毎週金曜日、二荒山神社前にたち続けて

昨年の8月25日より毎週金曜日の官邸前抗議行動に連帯してとりくみ始めた原発ゼロ栃木の会のアピール行動。早いもので8月23日に1周年を迎えました。二荒山神社前で午後6時から7時まで約一時間の行動です。サイレントアピールのみなさんは8時までやっています。少しの時間でも一緒にいかがですか。



## 6.2 原発ゼロ集会

東京・代々木公園で開かれた「原発ゼロをめざす中央集会」に参加しました。志位和夫委員長のあいさつや福島の子供の報告に聞き入り、チバレイさんとドラム隊の熱いコールにじびれました。国会包囲行動にも初参加しエールを交わしてきました。



国会包囲行動にも初参加しエールを交わしてきました。



## 3.10 原発ゼロ大行動インとちぎ

大震災と原発事故から2周年、「ふくしまを忘れない」の思いを込めて原発ゼロ栃木の会主催の「3.10 原発ゼロ大行動インとちぎ」に参加。集会では、「ふくしまのいまとこれから」と題してふくしま復興共同センター事務局次長小川英雄さんが講演しました。そのあと「まちなかパレード」で約300人が行進しました。

宇都宮市議団と党新潟市議団を訪問  
「新交通システム」で意見交換



新潟市議団(左)と野村せつ子、福田くみ子宇都宮市議、荒川つねお宇都宮市議(新潟市議会控室で=8月4日)

宇都宮市豊郷後援会のみなさんと  
党本部・赤旗編集局を訪問



市田書記局長を囲んで(党本部=5月29日)

## 柏崎刈羽原発を視察

8月3日、自治体学校の分科会で、東電柏崎刈羽原発と電源3法交付金で建設した施設などを視察しました。同原発は、栃木県から約93kmにあり、県の地域防災計画の対象です。助言者として地質学の立石雅昭新潟大学名誉教授、柏崎市と刈羽村の日本共産党議員団が同行しました。

構内に入るには念入りな身分証明を求められ、構内の写真撮影も禁止されています。自由に見学できるサービスホールで東電職員の説明を聞き、バスで構内を見て回りました。

驚いたのは、東電による「福島第1原発の状況」説明。いまだ収束せず汚染水流出が問題になっているのに、津波の備え、電源喪失時の電源復旧と冷却の手だて、原子炉損傷時の水素や放射生物質の放出を減らす手だてが不十分、などと早々と「教訓」を結論づけていました。国の新規規制基準にそって、防潮堤の建設、フィルタ・ベントの設置、電源確保、冷却水確保などをすすめ、再稼働に向けた安全審査の早期申請を着々とすすめていることに怒りがわきました。

電力会社はこれまで「止める、冷やす、閉じ込める」を安全対策の三原則と言ってきましたが、立石氏は「原子炉格納容器内の排気のためのフィルタ・ベント設置は三原則が崩れたことを示す」と指摘、防潮堤についても「津波がカベを駆け上がる力を考慮しておらず、安全とは言い難い」と話していました。

また東電は、「使用済み核燃料プールの容量はあと3年で満杯」、そのあとは「六カ所村に持って行く」と説明。しかし六カ所村の貯蔵施設もほぼ満杯で後始末の見通しがたたないのに、相変わらず原発を「低コストのエネルギー」と言い続けていることに唖然としました。

電源3法交付金で建設された刈羽村生涯学習センター「ラピカ」、柏崎市「夢の森公園」なども視察、りっぱな施設に驚きました。日本共産党議員団は「祭でも何でも東電の寄付だのみだった」と依存体質がつくられてきたことを指摘していました。

柏崎刈羽原発は07年7月中越沖地震の時、震度7の激震で「ひとつ間違えば炉心溶融の過酷事故に至る寸前」だったといえます。今回の視察で、交付金よりも大事な住民の命と安全を守る自治体の役割について認識を深め、「危険な原発は、なくす以外の安全対策はない」と痛感しました。



東電のサービスホール入り口で



原子炉の模型の前で説明を聞く。



完成した防潮堤。東電のパンフレットより転載